

一ノ瀬篤教授略歴

略歴

- 1939年 9 月 兵庫県西宮市に生まれる。
- 1958年 3 月 県立兵庫高校卒業
- 1963年 3 月 神戸大学経営学部卒業
- 1967年 3 月 神戸大学大学院経営学研究科修了（商学修士）
- 1967年 4 月 大阪市立大学大学院経営学研究科入学
- 1968年 4 月 広島商科大学（現広島修道大学）商学部助手
- 1970年 4 月 広島商科大学商学部専任講師
- 1971年 3 月 大阪市立大学大学院経営学研究科博士課程単位取得退学
- 1973年 4 月 広島修道大学商学部助教授
- 1980年 4 月 広島修道大学商学部教授
- 1980年10月 愛媛大学法文学部教授
- 1983年 4 月 商学博士（大阪市立大学）学位取得
- 1988年 4 月 岡山大学経済学部教授
- 1996年 4 月 岡山大学経済学部 二部主事（1998年 3 月まで）
- 1998年 4 月 岡山大学評議員（2000年 3 月まで）
- 1998年12月 博士（神戸大学 経済学）学位取得
- 2000年 4 月 岡山大学経済学部長（2001年 3 月まで）
- 2001年 4 月 岡山大学名誉教授
- 2001年 4 月 桃山学院大学経済学部教授
- 2003年 4 月 桃山学院大学大学院経済学研究科長（2005年 3 月まで）
- 2010年 3 月 桃山学院大学定年退職

学会活動

1992年10月 信用理論研究学会理事（2002年3月まで）

1996年4月 日本金融学会理事（2004年3月まで）

所属学会（2010年3月現在）

日本金融学会 証券経済学会 信用理論研究学会 生活経済学会

非常勤講師

福岡大学，広島大学，広島修道大学，福山大学，岡山大学，放送大学，岡山商科大学，山陽女子短期大学，四国学院大学，甲南大学，神戸大学，常葉学園浜松大学，東北大学

留学・客員研究員

1972-73年 The University of Manchester (U.K.)

1999年 The Bank of Canada (Ottawa), Carleton University (Ottawa)

一ノ瀬篤教授著作等目録

著書・論文

I. 著書（単著）

1. 『国債管理とスタグフレーション：一つの戦後イギリス経済論』株式会社新評論，1980年12月。増補版，1985年3月。（学位論文，商学博士）
2. 『固定相場制期の日本銀行金融政策：金融引締めと為替政策』御茶の水書房，1995年5月。（学位論文，博士〈経済学〉）
3. 『国債の謎』桃山学院大学総合研究所，研究叢書27，2010年3月。

II. 共著・編著

1. 田中生夫・山本栄治・一ノ瀬篤『戦後日本金融政策史の再検討』甲南大学総合研究所（叢書38），1995年3月（第3章「IMF14条国期の日本銀行金融政策」担当）。
2. 一ノ瀬篤・角南英郎『激動期の日本銀行金融政策：1971-89年』大学教育出版，1999年10月（はじめに，第1章「第一次石油危機前後の日銀金融政策」，第5章「バブルの形成と膨脹」，第6章「バブル期の日銀金融政策」，補章2「バブル発生に関する代表的論議：論点整理」，あとがき，担当）。
3. 一ノ瀬篤編著『現代金融・経済危機の解明』ミネルヴァ書房，2005年10月（はじめに，序章「日本のバブル再考」，第1章「バブル崩壊後における資金フローの変化－直接金融の「進展」とその矛盾－」，あとがき，担当）。
4. 下平尾勲編著『現代の金融と地域経済』株式会社新評論，2003年2月（第1部第9章「信託銀行資産の成長：1980-2000年－原因とその意味

するもの」担当)。

5. 信用理論研究会編『現代金融と信用理論』大月書店, 2006年1月(第5章第3節「日本の長期不況と金融政策—引き締め緩和から連鎖倒産の防止へ—」担当)。

Ⅲ 論文・研究ノート

- (1) 「株式会社の生成」(『大阪市大論集』第7号, 1968年3月)。
- (2) 「金融資本における『銀行』とは何か」(『広島商大論集』第9巻第2号, 1969年3月)。
- (3) 「創業者利得の資本制経済への反作用(その1)」(『広島商大論集』第11巻第1号, 1970年10月)。
- (4) 「創業者利得の資本制経済への反作用(その2)」(『広島商大論集』第11巻第2号, 1971年3月)。
- (5) 「資本輸出に関する一考察(その1)」(『広島商大論集』第12巻第1号, 1971年10月)。
- (6) 「資本輸出に関する一考察(その2)」(『広島商大論集』第12巻第2号, 1972年3月)。
- (7) 「資本輸出論と宇野経済学」(『証券経済学会年報』第7号, 1972年5月)。
- (8) 「広島県下清酒業の経済分析」(『広島商科大学商業経済研究所報』第9巻, 1972年3月)。
- (9) 「広島県下清酒業の経済分析(続)」(『広島商科大学商業経済研究所報』第11巻, 1974年3月)。
- (10) 「国債の比重低下と国債価格支持政策」(『証券経済学会年報』第9号, 1974年5月)。
- (11) 「イギリス国債の動向」(『広島修大論集』第15巻第1号, 1974年10月)。

- (12) 「Fund of Credit 政策の研究」(『広島修大論集』第15巻第2号, 1975年3月)。
- (13) 「南海泡沫事件と国債」(大阪証券取引所『インベストメント』第28巻第2号, 1975年4月)。
- (14) 「国債価格支持政策の研究－戦後イギリスの事例－Ⅰ」(大阪市立大学『経営研究』第126号, 1973年7月) → 転載『金融論選集 X X I』1975年5月。
- (15) 「国債価格支持政策の研究－戦後イギリスの事例－Ⅱ」(大阪市立大学『経営研究』第127号, 1973年9月) → 転載『金融論選集 X X I』1975年5月。
- (16) 「イギリス Treasury Bill の研究」(日本証券経済研究所『証券経済』第122号, 1975年7月)。
- (17) 「The National Debt Policy in post-war Japan」(『広島修大論集』第16巻第1号, 1975年10月)。
- (18) 「遊休貨幣の現代的存在形態：イギリス大蔵省証券研究との関連において」(『証券経済学会年報』第11号, 1976年5月)。
- (19) 「イギリススタグフレーションの基礎構造(1)」(『広島修大論集』第17巻第1号, 1976年10月)。
- (20) 「イギリススタグフレーションの基礎構造(2)」(『広島修大論集』第18巻第1号, 1977年10月)。
- (21) 「広島県経済構造の分析(1)」(『広島修道大学商業経済研究所報』第14巻, 1977年3月)。
- (21) 「広島県経済構造の分析(2)」(『広島修道大学商業経済研究所報』第15巻第2号, 1978年3月)。
- (22) 「イギリスのスタグフレーション－労働力構成の変化と財政・金融政策－」(金融経済研究所『金融経済』第167号〈有斐閣〉, 1977年12月)。

- (23) 「国債とインフレーション」(『証券経済学会年報』第13号, 1978年5月)。
- (24) 「戦後イギリスにおける資本蓄積と財政：公共部門『貯蓄』性向の低さについて」(『修道商学』第19巻第1号, 1978年10月)。
- (25) 「戦後イギリスにおける産業資本の停滞性について」(『修道商学』第20巻第1号, 1979年6月)。
- (26) 「イギリスにおける金利自由化とインフレーション—『競争と信用統制』以降のイギリス金融政策—」(日本証券経済研究所『証券経済』第130号, 1979年12月)。
- (27) 「戦後イギリス国債史の基本問題—国債と資本蓄積—」(『金融学会報告』49, 1980年11月)。
- (28) 「広島県財政構造の特質」(広島県統計協会『統計の泉』No.365, 1980年12月)。
- (29) 「先進資本主義諸国における国債の現状—増発の原因と問題点—」(日本証券経済研究所『証券経済』第137号, 1981年9月)。
- (30) 「イギリス貨幣・金融史年表(1)」(愛媛大学法文学部論集 経済学科編『経済学』第15号, 1982年12月)。
- (31) 「イギリス貨幣・金融史年表(2)」(愛媛大学法文学部論集 経済学科編『経済学』第16号, 1983年12月)。
- (32) 「イギリス貨幣・金融史年表(3)」(愛媛大学法文学部論集 経済学科編『経済学』第18号, 1985年11月)。
- (33) 「イギリス貨幣・金融史年表(4)」(愛媛大学法文学部論集 経済学科編『経済学』第20号, 1987年11月)。
- (34) 「イギリス貨幣・金融史年表(5)」(『岡山大学経済学会雑誌』第21巻第3号, 1989年11月)。
- (35) 「スタグフレーションの原因と発現過程—アメリカ, イギリス, 日本についての実証的研究—」(『金融学会報告』56, 1983年6月)。

- (36) 「変動相場制と物価：1973-1980年のイギリスについて」(愛媛大学経済学会『愛媛経済論集』第3巻第2号, 1983年11月)。
- (37) 「変動相場制と物価」〈『金融学会報告』59, 1985年3月：(36)に加筆〉。
- (38) 「1976年以降のイギリス経済」〔著書(1)の増補版への加筆。株式会社新評論, 1985年3月〕。
- (39) 「マルクス学派の公債理論(上)」(愛媛大学経済学会『愛媛経済論集』第5巻第1号, 1985年7月)。
- (40) 「マルクス学派の公債理論(下)」(愛媛大学経済学会『愛媛経済論集』第5巻第2号, 1985年11月)。
- (41) 「J.クラバムの貨幣・金融史：1821-1890年」(愛媛大学経済学会『愛媛経済論集』第6巻第1号, 1986年6月)。
- (42) 「R.S.セイヤーズの金融政策史論：1890-1914年」(愛媛大学法文学部論集 経済学科編『経済学』第19号, 1986年11月)。
- (43) 「戦後イギリスにおける国債管理政策の推移：1945-1984年」(『金融学会報告』63, 1987年1月)。
- (44) 「『諸国民の富』等における funding の訳語について」(愛媛大学経済学会『愛媛経済論集』第7巻第2号, 1988年1月)。
- (45) 「株価騰落の意味するもの」(愛媛大学経済学会『愛媛経済論集』第8巻第1号, 1989年1月)。
- (46) 「明治9年の国立銀行条例改正と公債—公債による銀行資本金払い込みの意味するもの—」(『岡山大学経済学会雑誌』第20巻第4号, 1989年2月)。
- (47) 「対米証券投資の問題点」(岡山経済研究所『岡山経済』Vol.13, No.153, 1990年9月)。
- (48) 「1920年反動恐慌前の過剰流動性対策」(『金融学会報告』71, 1991年1月：『岡山大学経済学会雑誌』第22巻第2号, 1990年9月, に

加筆)。

- (49) 「Why is Bank Rate below Call Rates in Japan ?」(『岡山大学経済学会雑誌』第22巻第3・4号合併号, 1991年2月)。
- (50) 「昭和20年代の日銀政策 (I)」(『岡山大学経済学会雑誌』第23巻第1号, 1991年6月)。
- (51) 「昭和20年代の日銀政策 (II)」(『岡山大学経済学会雑誌』第23巻第2号, 1991年10月)。
- (52) 「『金融政策の復活』(1953年) について: 貿易金融政策の根本的転換」(『岡山大学経済学会雑誌』第23巻第3号, 1991年12月)。
- (53) 「1955年の『金融正常化』と1957年の公定歩合引上げ」(『岡山大学経済学会雑誌』第23巻第4号, 1992年2月)。
- (54) 「昭和30年代の日銀金融政策: 問題設定-内外資本移動規制と『低い公定歩合』政策-」(『岡山大学経済学会雑誌』第24巻第2号, 1992年8月)。
- (55) 「資産形成の多様化: これからの貯蓄」(『生活経済学会特別公開シンポジウム報告書』, 1992年11月)。
- (56) 「出生率の低下について」(岡山経済研究所『岡山経済』第16巻, 第189号, 1993年10月)。
- (57) 「IMF14条国期の日本銀行金融政策」(『岡山大学経済学会雑誌』第25巻第3号, 1994年2月)。
- (58) 「IMF 8 条国移行後の日本銀行金融政策: 1965-1970年」(『岡山大学経済学会雑誌』第25巻第4号, 1994年3月)。
- (59) 「1972年6月の公定歩合引き下げにかんする一つの疑問」(『岡山大学経済学会雑誌』第26巻第1号, 1994年6月)。
- (60) 「1972年6月の公定歩合第6次引下げと1973年3月の引上げ決定」(『岡山大学経済学会雑誌』第26巻第3・4号合併号, 1995年3月)。
- (61) 「変動相場制度移行後の三度の引き締め-外形の素描-」(『岡山大

- 学経済学会雑誌』第27巻第12号，1995年12月)。
- (62) 「石油危機までの1973年引締め」(四国学院『社会科学年誌』6，1996年3月)。
- (63) 「庶民の住宅購入・住宅流動化政策(1)」(〈財〉住宅金融普及協会『住宅問題研究』Vol.12, No. 2，1996年6月)。
- (64) 「庶民の住宅購入・住宅流動化政策(2)」(〈財〉住宅金融普及協会『住宅問題研究』Vol.12, No. 3，1996年10月)。
- (65) 「石油危機勃発後の1973年引締め：『日本銀行百年史』第六巻の叙述について」(『岡山大学経済学会雑誌』第28巻第4号，1997年3月)。
- (66) 「バブルの形成に関する代表的論議：論点整理－泡沫の期(1)－」(『岡山大学経済学会雑誌』第29巻第3号，1997年12月)。
- (67) 「バブル初期段階の株価高騰について：1983-85年－泡沫の期(2)－」(『岡山大学経済学会雑誌』第30巻第1号，1998年6月)。
- (68) 「バブル本格化段階における為銀海外短資取入れと株式市場：補足的考察－泡沫の期(3)－」(『岡山大学経済学会雑誌』第30巻第2号，1998年9月)。
- (69) 「バブルの形成について－代表的論議の吟味と論点の展開－」(『証券経済学会年報』第34号，1999年5月)。
- (70) 「バブルと恐慌」(『信用理論研究』第17号，1999年10月)。
- (71) 「The Bubble and Monetary Policy in Japan：1984-1989」(『岡山大学経済学会雑誌』第31巻第3号，1999年12月)。
- (72) 「国際比較によるカナダ経済概観」(『岡山大学経済学会雑誌』第31巻第4号，2000年2月)。
- (73) 「金融政策の対『国際資本移動』効果」(『桃山学院大学経済経営論集』第43巻第3号，2002年1月)。
- (74) 「A Brief History of Monetary Policy in Post-war Japan」(『桃山学院大学総合研究所紀要』第27巻第3号，2002年3月)。

- (75) 共著「1990年代の日米間資本移動（1）」（共著者：角南英郎）（『桃山学院大学経済経営論集』第44巻第1号，2002年6月）。
- (76) 「1990年代の日米間資本移動（2）」（『桃山学院大学経済経営論集』第44巻第2号，2002年9月）。
- (77) 「バブル形成メカニズムの基礎－岡崎守男教授の所説に寄せて－」（『桃山学院大学経済経営論集』第44巻第4号，2003年3月）。
- (78) 「インフレ・ターゲティング政策の景気浮揚効果－史的回顧の観点から－」（『桃山学院大学経済経営論集』第45巻第2号，2003年9月）。
- (79) 「信託業務の将来について－永田俊一『信託のすすめ－今，なぜ信託なのか－』との対話－」（『桃山学院大学経済経営論集』第45巻第3号，2003年12月）。
- (80) 「借金を続けて借金をなくす話－日本の終戦直後インフレーション（上）－」（『桃山学院大学経済経営論集』第45巻第4号，2004年2月）。
- (81) 「借金を続けて借金をなくす話－日本の終戦直後インフレーション（下）－」（『桃山学院大学経済経営論集』第46巻第3号，2004年9月）。
- (82) 「国債整理基金特別会計とピット減債基金－『借りながら返す』政策について－」（『桃山学院大学経済経営論集』第50巻第1・2合併号，2008年6月）。

辞典

- (1) 『平凡社大百科辞典』1985年6月（「ギルトエッジド証券」および「ビル・ブローカー」の項目）
- (2) 吉野昌輔監修『四訂 金融・経済用語辞典』経済法令研究会，2002年（約20項目を担当）
- (3) 『大月金融辞典』大月書店，2003年4月（約30項目を担当）

書評・文献解説

- (1) 「イギリス国債史の基本問題－E.L.Hargreaves, *The National Debt* の研究－本源的蓄積期」(愛媛大学法文学部論集 経済学科編『経済学』第14号, 1981年12月)。
- (2) 「イギリス国債史の基本問題－E.L.Hargreaves, *The National Debt* の研究－産業資本主義期以降」(愛媛大学経済学会『愛媛経済論集』第1巻, 1981年11月)。
- (3) 「解題：管理通貨と金融資本」(『川合一郎著作集』第六巻, 有斐閣, 1982年)。
- (4) 「石原定和『戦後証券市場の構造分析』(千倉書房, 1981年)」(『愛媛経済論集』第2巻第1号, 1982年6月)。
- (5) 「寺地孝之『近代金融システム論』(有斐閣, 1998年)」(関西学院大学商学研究会『商学論究』第46巻第1号, 1998年6月)。
- (6) 「津田和夫『現代銀行論序説』(桃山学院大学総合研究所, 研究叢書18, 2003年3月)」(日本金融学会編『金融経済研究』第21号, 2004年12月)。
- (7) 「CH アソシエイツ社『アメリカ国債局の歴史, 1940-1990年－付：1789-1939年の歴史的重要事件－』1990年, (上) 第二次大戦終了まで」(『岡山大学経済学会雑誌』第36巻第4号, 2005年3月)。
- (8) 「CH アソシエイツ社『アメリカ国債局の歴史, 1940-1990年－付：1789-1939年の歴史的重要事件』1990年, (下) 第二次大戦終了以降」(『岡山大学経済学会雑誌』第37巻第1号, 2005年6月)。

翻訳

1. 一ノ瀬篤・川合研・中島将隆訳『ポンド・スターリング－イギリス貨幣史－』(A.E.Feavearyear & E.V.Morgan, *The Pound Sterling*; 1963, の邦訳) 株式会社新評論, 1984年9月(序文, 第9章, 第10章, 第11章,

第12章, 訳者あとがき, 担当)。

2. 一ノ瀬篤・斎藤忠雄・西野宗雄訳『イギリス国債史』(E.L.Hargreaves, *The National Debt*, 1931, の邦訳) 株式会社新評論, 1987年5月(序文, 第1章, 第2章, 第7章, 第8章, 第11章, 訳者あとがき, 担当)。
3. 「国債の解剖」(Midland Bank Review, Nov. 1972, 所載の *Anatomy of the National Debt* の邦訳: 『広島商大論集』第13巻第2号)。

学会・研究会報告

- (1) 資本輸出に関する一考察(証券経済学会第11回関西西部会, 1971年2月)
- (2) 国債の比重低下と国債価格支持政策—戦後イギリスの事例—(証券経済学会第5回西日本大会, 1971年2月)
- (3) 生成期のイギリス国債(信用理論研究会関西西部会, 1974年1月)
- (4) イギリス Treasury Bill の研究(証券経済学会第12回全国大会, 1975年5月)
- (5) スタグフレーションと国債—イギリスの場合—(証券経済学会第14回全国大会, 1977年5月)
- (6) 戦後イギリス国債史の基本問題—国債の効果について—(金融学会1978年度秋季大会, 1978年11月)
- (7) イギリスにおける金利自由化とインフレーション—「競争と信用統制」以降のイギリス金融政策—(証券経済学会第11回西日本大会, 1979年11月)
- (8) イギリスにおける金利自由化とインフレーション—(ロンドン資本市場研究会: 日本証券経済研究所主催, 1979年12月)
- (9) スタグフレーションの原因と発現過程—アメリカ, イギリス, 日本についての実証的研究—(金融学会1982年度春期大会, 1982年5月)
- (10) 変動相場制と物価—1973-1980年のイギリスについて—(金融学会1983年度秋季大会, 1983年11月)

- (11) イギリスにおける国債管理政策の推移：1945-1984年（金融学会1985年度秋季大会，1985年11月）
- (12) 明治9年の国立銀行条例改正と公債－公債による銀行資本金払い込みの意味するもの－（信用理論研究会関西部会，1989年4月）
- (13) 戦前のイングランド銀行金融政策：1890-1939年－R.S.セイヤーズの所説によって－（金融学会関西部会，1989年4月）
- (14) 1920年反動恐慌前の過剰流動性対策（金融学会1989年度秋季大会，1989年10月）
- (15) IMF14条国時代の日銀金融政策－内外資本移動規制と人為的低金利政策－（金融学会関西部会，1992年5月）
- (16) 資産形成の多様化：これからの貯蓄（生活経済学会特別公開シンポジウム，1992年5月）
- (17) 金融政策（1953-71年）の再検討－人為的低金利政策論吟味－（田中生夫・山本栄治氏と共同報告，金融学会歴史部会，1994年4月）
- (18) 固定相場制期の金融引締めと為替政策－その段階的変容－（金融学会1996年度秋季大会）
- (19) バブルの形成について－代表的論議の吟味と論点の展開－（証券経済学会関西部会第90回，1998年4月）
- (20) バブルと恐慌－日本のバブル発生過程を中心として－（信用理論研究会1998年度秋季大会，1998年10月）
- (21) The Bubble and Monetary Policy in Japan：1984-1989（Regular Seminar at the Bank of Canada, 14 July 1999）
- (22) 日本におけるバブルの発生・展開と金融政策（日本金融学会歴史部会，2000年7月）
- (23) 日本銀行金融史（1990年以前）の回顧：今次金融緩和との対比（金融学会2003年度春期大会，中央銀行パネル，2003年5月）

新聞寄稿

- (1) 「画一化が生んだ『日本病』」(『朝日新聞』「論壇」1981年8月20日)
- (2) 「黒字を為替安定に活用せよ」(『朝日新聞』「論壇」1990年5月29日)
- (3) 「マスコミ時評『新聞の個性』①-⑥」(『愛媛新聞』1986年4月-1986年9月)

雑録(随想, 他)

著書『経済学部干柿教授-神戸あの頃, 大学この頃-』(ミネルヴァ書房, 2005年)

新聞, 雑誌など所載

- 「あの頃・友人達・新庄先生」(神戸大学新庄会『ミネルヴァ』新庄博先生追悼号, 1980年11月)
- 「小さなみほとけの群」(総本山知恩院『知恩』通算425号, 1982年7月)
- 「昭和20年代の子供たち」(『愛媛新聞』1983年2月19日)
- 「昭和20年代」①-⑭(『愛媛新聞』「四季録」1983年10月-12月)
- 「ある日」①-⑥(『愛媛新聞』「四季録」1984年1月-2月)
- 「七つの大罪」①-⑦(『愛媛新聞』「四季録」1984年2月-3月)
- 「黒字基金を設け途上国へ還流を」(『日経ビジネス』1990年7月16日)
- 「子どもは世界の清浄剤, それ自体で尊い」(エンゼル・プランへの期待: 特集「実施急がれる少子対策」『プラザ岡山』vol.16, 1994年4月)
- 「戦後復興期の神戸」①-⑦(『神戸新聞』「随想」1997年9月-12月)
- 「風花は」(田中生夫先生追悼文集『春の日は』1998年9月)
- 「多品種少量生産と企業・大学」(「松籟」欄:『岡山経済』vol.23, no.269, 2000年6月)
- 「Once upon a Time in Kobe」(『しのび草-藤田正寛先生追悼集-』2002年)
- 「自由の重さ」(桃山学院大学一ノ瀬ゼミナール卒業論文集『かへい経済』

第1号, 2004年春)

「紙に録音」(桃山学院大学広報『アンデレクロス』No.115, 2004年7月)

「畏友建部和弘教授への謝辞」(『岡山大学経済学会雑誌』第36巻第4号,
2005年3月)

「初秋の掛保川河口」(桃山学院大学一ノ瀬ゼミナール卒業論文集『かへい
経済』第3号, 2007年秋)

委託研究, 他

「郵便貯金資金の運用について－国際比較, 歴史, 及び最近の問題点－」
(四国郵政局, 1982年12月)

「近畿圏における金融財政事情と簡保資金」(共同執筆者: 三木谷良一・石
垣健一, 近畿郵政局保険部, 1982年)

「貯蓄の機能と郵便貯金」(四国郵政局, 1984年1月)

「Treasury Investments & Loans and Postal Savings in Post-war
Japan」(貯蓄経済研究センター, 1988年6月)

「E.V.Morgan 教授講演会『英国の証券取引所改革と証券業の将来』にお
ける通訳・進行役(講演内容は以下に収録: 日本証券経済研究所『証券
経済時報』第25巻第18号)

「出生率向上対策について」(岡山県知事への答申: 「岡山県子供を健やか
に生み育てるための懇談会」会長として, 1992年3月)

「高齢少子化時代の老後生活設計と郵便貯金」(中国郵政局, 2000年11月)